

# 株式会社テクノステート：進化し続ける精密部品づくり

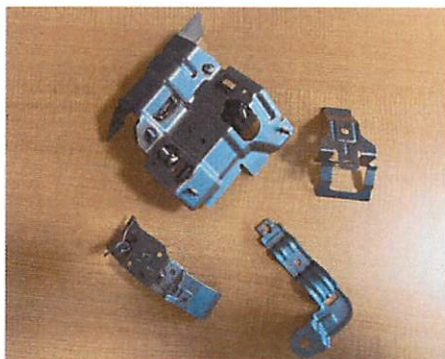


「素材加工技術こそ、他のメーカーとの差別化ポイントです。100年運営してきた中で多くのノウハウを蓄積してきました」

株式会社テクノステート 代表取締役、植原 正光

テクノステートの代表製品は、リテンションナットとシーリングキャップであり、1960年に製法特許を取得してから約60年が経過した現在でも、その需要は拡大し続けている。「弊社は、金属製のシール・ファスナー分野の専門メーカーであり、独自の製

テクノステートは、業界のサプライチェーンの中核として、プロセスの合理化やお客様のニーズに応えるための「モノづくり」に注力している。



ブラケット部品(複雑な形状)

造技術と特殊素材が競争力の源泉となっています」と植原社長は語る。

同社は、100年前から生産情報や技術データをグローバルに収集し、DX情報センターでデータベース化して管理している。「アドバンステクノロジーセンターでは、パワートレインのエネルギー変換に対応するため、新素材の開発を進め、ハイスペック

な技術や部品をお客様に提案しています」と社長は補足する。

同社社長が語るように、自動車産業は100年に一度の変革期を迎え、エネルギーと素材革新が今後のカギを握る時代になっている。また、「日本の中小企業が



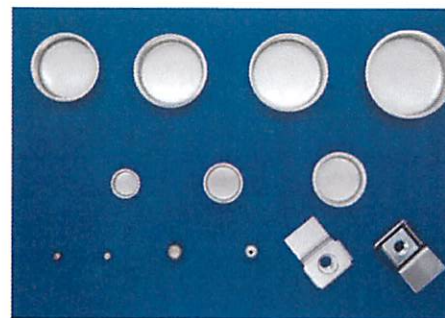
信頼できる職人技

日本特有の不公正なビジネス習慣を改める必要がある」と植原氏は付け加える。

「大企業と中小企業の産業循環構造を構築することで、日本の産業基盤を強化し、有事の際

に生活必需品の国産化をすぐに開始することができる」と言う。

自動車や5G/6Gの技術開発が進む中、提案型ソリューションビジネスモデルへの進化がテクノステートを前進させるのだ。最後に、「次の100年を見据えた、モノづくりのパイオニア企業を私たちは目指している」と社長は締めくくった。



ベストセラーパーツ

生産性投資と労働分配率を向上させるためには、日本政府が